

♪♪出演者紹介♪♪

池永康規(フルート)

金沢大学医学部大学院医学研究科卒業。
医師。医学博士。リハビリテーション専門医・指導医。
フルートを上野賢治、藤井ひろみ、マイケルウェイン、上坂学の各氏に師事。
ピアノを吉村絵里氏に師事。開進堂公開講座にて工藤重典氏からレッスン
を受ける。'94年石川県管楽器コンテストで金賞受賞。医師としての仕事の傍
ら、地道な演奏活動を行っている。
現在やわたメディカルセンター リハビリテーション科医長。

吉村絵里(ピアノ)

国立音楽大学卒業後、渡独しドイツ・カールスルーエ音楽大学を卒業。
留学中はヨーロッパ各地のアカデミーに参加し研鑽を積む。
帰国後、後進の指導にあたるとともに金沢や小松などでリサイタルを開催。
OEKメンバーとの共演、合唱伴奏等金沢を中心に演奏会に出演。
西上智宏、池澤幹男、加藤一郎、Han Kayaに師事。金沢市出身。

第16回やわたハートフルコンサート
クラシック・ステージ
「フランスの響き」

日時:2010年3月6日(土)

日時:午後2時開演

場所:やわたメディカルセンター

場所:1階脳神経外科前オープンスペース

出演:池永康規(フルート)

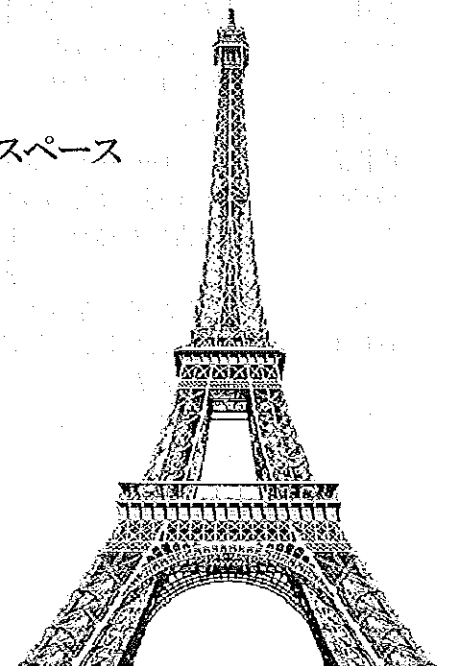
出演:吉村絵里(ピアノ)

C. シャミナードノ

フルートと管弦楽のためのコンチェルティーノ ニ長調

C. フランクノ

フルートとピアノのためのソナタ イ長調



フルートと管弦楽のためのコンチェルティーノ ニ長調

作品 107

Concertino, Op. 107 - Flute

セシル・シャミナード

Cécile Louise Stéphanie Chaminate
(1857-1944)

～作曲者紹介～

セシル・シャミナードはパリで生まれ、フランス南東部のモンテカルロで没しました。当時としては珍しい女性作曲家でドビュッシーなどとほぼ同年代に活躍し、経済的に自立した最初の女性作曲家といわれています。没後 20 世紀後半には大半の曲が忘れ去られてしまいましたが、本日演奏するこの「フルートと管弦楽のためのコンチェルティーノ」が何度か演奏、録音されるようになりその後はピアノ曲なども復活を遂げています。

～楽曲紹介～

1902 年パリで作曲されました。コンチェルティーノとは小協奏曲の意味で 1 楽章形式の曲です。協奏曲とは、ヴァイオリン、ピアノ、フルートなどある楽器を独奏する奏者がいて、オーケストラが伴奏する演奏形態をいいます。オーケストラに伴奏してもらえるのはほんの一握りの、超一流演奏家のみの特権で、ほとんどの協奏曲はピアノ伴奏でも演奏できるように編曲されています。

優しさに満ちた柔らかな旋律で開始される序奏に続き、揺れ動く技巧的な中間部を経過し、ソロのカデンツァ(伴奏なしで独奏者が一人で演奏する、技巧的な部分をいいます)を通して最初の主題が再現され、プレスト(速い演奏)のコーダ(終止形)で幕を下ろします。8 分弱ほどの曲です。

～演奏者より～

初めてこの曲を聴いたとき、なんて優しさに満ちあふれた曲なのだろう、と感じました(一説では童謡、「ぞうさん」の旋律に似ている、という噂もあります?)。作曲者が女性だからでしょうか、力強さや迫力よりもすべてのものを許容し包み込む女神のような優しさ、温かさにあふれています。気持ちをリラックスさせて聴いてくださいね。

フルートとピアノのためのソナタ イ長調

Sonata Pour Flute et Piano en La majeur

セザール・フランク

César-Auguste-Jean-Guillaume-Hubert Franck
(1822-1890)

～作曲者紹介～

セザール・フランクはベルギーで生まれ、パリで没しました。ベートーヴェン以降のドイツロマン派音楽から強い影響を受けており、ドビュッシーらの印象主義音楽とのちに拮抗することとなります。本日演奏するソナタ イ長調はフランス系ヴァイオリンソナタの最高傑作とされています。

～楽曲紹介～

1886 年同郷の新進気鋭ヴァイオリニスト、ウジェーヌ・イダイの結婚式のお祝いとして彼に捧げられ新婦ペーヌの伴奏のもと初演されました。原曲はヴァイオリンですが、フルートやチェロでも演奏されます。ソナタは音楽のもっとも代表的な形式で、主題の提示で始まり展開部を経て、最後に主題が再現される構成ですが自由な構成を含んでいることも多く、楽曲の一般的なタイトルとして用いる場合も多いです。ピアノパートを単なる伴奏ではなくソロ楽器と対等に扱った 2 重奏曲のようなつくりが特徴です。

第 1 楽章 Allegretto ben moderato 8 分の 9 拍子 イ長調

牧歌的で、臍な中から立ち現われる優美な主題が全曲の中核をなしています。感動的な高揚の後、諦めにも似た静けさに終わります。

第 2 楽章 Allegro 4 分の 4 拍子 二短調

ソナタ形式によって構成されています。きわめて情熱的な楽章で、フルート、ピアノ双方に高度な演奏技術を要します。

第 3 楽章 Recitativo-Fantasia (Ben moderato) 2 分の 2 拍子

Recitativo(レチタティーヴォ)とは吟遊詩人が詩を朗読するように、自由に語りかけるように、といった意味です。調性表記もなく、幻想的な主題を次々と歌い継いでいきます。

第 4 楽章 Allegretto poco mosso 2 分の 2 拍子 イ長調

フルートとピアノのカノン(輪唱)風の自由なロンドソナタ形式です。最後を飾るにふさわしい輝かしいフィナーレです。

～演奏者より～

昨年のコンサート終了後、私が「今度はフランス音楽特集をしたい」と言ったところ、毎回伴奏を務めてくださる吉村さんが「フランクのソナタをやりませんか？」と誘ってくれました。吉村さんの華麗なるピアノもぜひお楽しみください。